

エリク・ラクスマン・セミナー 村田大使挨拶（11月18日）

コソネン大臣,
ご来場の皆様,

駐フィンランド日本国大使の村田隆です。本日のセミナーの開催をお慶び申し上げます。エリク・ラクスマン、そして、コソネン大臣の御出身地であるこの美しいサヴォンリンナには前々から是非訪れてみたいと思っていましたので、今回サヴォンリンナ市からセミナーの招待をいただき大変嬉しく思います。

エリク・ラクスマンは遭難してイルクーツクに辿り着いた日本人船頭の大黒屋光太夫一行の境遇に同情し、ロシア皇帝のエカチェリーナ2世へ直訴するなどして、1792年に一行の帰国を実現させました。

これは、今から200年以上も前の日本人とフィンランド人との不思議な巡り合わせです。この温かな善意から始まった日本とフィンランドとの両国民の関係は、本年外交関係樹立100周年を迎え、様々な分野で結びつきをさらに強めています。本年、防衛協力・交流に関する覚書、JETROとビジネス・フィンランドの相互協力強化に関する覚書が署名されました。また、100周年を記念して、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がフィンランドを御訪問されました。先月にはニーニスト大統領が即位の礼に出席するために訪日し、安倍総理と首脳会談を行いました。大統領は両国関係について「信頼」というキーワードを使っています。

200年以上前から続く両国国民の信頼関係に、ここサヴォンリンナで、また、大黒屋とラクスマンの展示会を開催している日本の鈴鹿市で改めて気づかせてくれることに感謝したいと思います。

本日のセミナーを通じ、ラクスマンや光太夫をはじめとする両国の先人達が育んできた深い相互理解と信頼関係に思いをいたし、両国の友好関係がさらに発展していくことを祈念して挨拶といたします。

（了）